

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井2-431
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人
コンビニの会
定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物認可
第121号



阿蘇カルデラを望む大観峰(外輪山)からは阿蘇五岳と水田が広がる

景に出会う。

メディアに「日奈久断層帯」という文字が
出て以来、温泉地へ来る客足は遠のいている
との事。今回の震源域の大分から熊本に至る
地域は日本でも有数の温泉地が点在してい
る。火山地帯の雄大な景観・温泉・湧水など
の自然は、裏返すと火山・地殻変動の産物と
改めて思い知らしめる。因みに、豊かな地下
水は熊本地域の水道水をほぼすべて供給して
いるそうだ。大分別府から阿蘇に至る通称や
まなみハイウェイを走ると、あか牛の放牧風

状態であると聞いた。

熊本の大地震から二ヶ月余り経った頃、八
代市の古い温泉地・日奈久で住職をしている
人に久しぶりに電話すると「負けんばい！」
と熊本弁で気丈に答えてくれた。地震直後、
暫くはヘルメットをかぶり続け、経験した事
の無い揺れに恐怖の日々を過ごしたという。
本堂の屋根瓦はブルーシートを掛けたままで
梅雨時の大雨も相まって、修復もままならぬ
状態であると聞いた。

阿蘇の田園

カメラマン 安藤 吉郎

脇道に外れて、大分竹田の長湯温泉(ラムネ温泉)の民宿に飛び込みで入った時、入湯券をもらつた近くの共同浴場は、深い緑の炭酸泉で心地よかつた。夕食はあか牛の焼肉であつた。阿蘇周辺は春から夏にかけてミヤマキリシマ(ツツジ科)、ヒゴタイ(キク科)の花が美しい。やまなみハイウェイが終わる外輪山にさしかかると阿蘇谷のカルデラが開けてくる。ちょうど深い鍋底の窪みのようだ。その中心に阿蘇五岳がそびえている。この中に何万人もの人が生活しているのも驚きである。眼下には一面に水を張つた田んぼが広がつてゐる。六月初旬、田植えが始まろうとしていた。一連の地震で地割れや液状化、水路の破損で田畠は甚大な被害になつた。熊本はよく阿蘇山にちなんで「火の国」と称されるが、実は「水の国」でもあつた。



水汲みに来る人がたえない
名水百選の池山水源(産山村)

脇道に外れて、大分竹田の長湯温泉(ラムネ温泉)の民宿に

飛び込みで入った時、入湯券をもらつた近くの共同浴場は、

深い緑の炭酸泉で心地よかつた。夕食はあか牛の焼肉であつた。阿蘇周辺は春から夏にかけてミヤマキリシマ(ツツジ科)、ヒゴタイ(キク科)の花が美しい。やまなみハイウェイが終わる外輪山にさしかかると阿蘇谷のカルデラが開けてくる。ちょうど深い鍋底の窪みのようだ。その中心に阿

蘇五岳がそびえている。この中に何万人もの人が生活して

いるのも驚きである。眼下には一面に水を張つた田んぼが

広がつてゐる。六月初旬、田植えが始まろうとしていた。

一連の地震で地割れや液状化、水路の破損で田畠は甚大な

被害になつた。熊本はよく阿蘇山にちなんで「火の国」と

称されるが、実は「水の国」でもあつた。

雑記 ごまめの歯ぎしり

ベンジャミン

うちには、私が独身時代に購入した観葉植物のベンジャミンがある。私の祖父母は花を育てるのが大好きで、庭地に住むようになった晩年もベランダは鉢植えでいっぱいだつた。その影響か私も植物に愛着はあつたが、マンション暮らしの

我が家では、子供が小さい頃は植木鉢の砂を触つて遊んでしまうので、ベランダに出して放置した時期もあり、さほど大事にはしてこなかつた。

だが、子供も成長し、少し時間に余裕ができた最近では、天気がよければ日

当たりの良いところへ移動させ、以前はほとんどやらなかつた水もあげ、時間があると葉のはこりを拭いたりと、まめに世話をしていた。反抗期を迎えた我が子とのかかわり方に悩んだりした時には、一枚一枚の葉に霧吹きで水をかけながら、心の中でベンジャミンに語り掛け、愚痴を聞いてもらつたりして心を落ち着かせることもあつた。

そんなある日、ベンジャミンに小さな実がいくつもついていることに気付いた。びっくりして調べてみると、「隠頭花序」(いんとうかじよ)と言い、外觀からは花と分からぬ状態ではあるが、その実の中でひつそりと花が咲いていふのだと知つた。まるで実のようなその花は、イチジクが同じ仲間であると言わるとなんとなくわかる気がした。実がなるのはある程度植物が成熟した証とのことで、とてもうれしく、また、私が心中で語り掛けていたことを、内側に秘めた「咽頭花序」という形にして花をして咲かせたようにも思えた。

おすすめの1冊

息子が生まれて以来、慌ただしく日々が過ぎていきました。養護学校や障害福祉制度のおかげで無事に27歳になりました。近頃は病気で寝込むようなことはなく、好きなものをたくさん見つけて生活を楽しんでいます。

私も息子の心配事が減り、漠然とした将来への不安があるもののようにやく穏やかに毎日が暮らせるようになりました。

他の人が味わえない多くの経験を通して、心身ともに団太くなつきました。とはいっても白髪は増え、老眼が進み、地下鉄の階段を上がるるのが面倒になり、肉体の衰えが気力を奪うことを感じます。長くなりそうな人生の後半をどう向き合えばいいのでしょうか。

現代は変化が早くて素早い対応が求められることが多く、仕事でも家庭でもよく考えないうちに判断して後悔することがあります。

(コンビニの会 理事 宮川 優子)

す。忙しいことを理由に雑に暮らしたくないと強く願いながら、全くできないのです。じつくり考える時間が足りない！

数年前から読書好きの友人たちが2か月に1度ほど我が家に集まり加藤博子先生を

先達に哲学を勉強しています。旅や小説がてがかりなので敷居は低いのですが、その先生は・・・大学生ではなく平均年齢50歳を目の前に語るのだから、その場は双方とも緊張感があり刺激的な時間です。「哲学は問題解決することはできない。問い合わせられてらそれでいい」と倫理の先生教えてもらいました。ピアノを習えば上手に曲が弾けるよう位哲学を習うと頭の使い方や心のあり方が上手くなるように感じます。

今回紹介する『五感の哲学』は一般向けの哲学書です。自分の中に引きこもることなく、周囲に対する感覚を研ぎますことで豊かに生きていけることを教えてくれます。

不安なニュースが次々と報道されて、いつの後半をどう向き合えばいいのでしょうか。現代は変化が早くて素早い対応が求められることが多い、仕事でも家庭でもよく考えないうちに判断して後悔することがあります。

◇ 感じてわかる

著者による読者への誘い

生きていることのおもしろさへの
哲学の旅

『五感の哲学
人生を豊かに生きるために』

(ベスト新書) 著者 加藤博子

けでいい。気持ちよくお風呂に浸かり、冷えたビールでもグビッと呑めれば、もうそれだけで極楽だ。明日も、忙しく目の前の仕事に没頭していれば、あつとという間に一日が終わる。何も考えないまま死ねる日まで、ひたすら時が過ぎるのを待てばいい。

でも、本当は、それだけで満たされているわけではない。どこかで何かを「こまかして、目を背けて我慢している」と、この底では分かっている。

そんなとき、死んだら天国や浄土という本当に幸せな場所に行けますよ、と宗教は慰めてくれます。実際、その教えに導かれて安らかに逝ける人々も大勢いることでしょう。しかし、いまさら宗教に帰依することなどできない人もいます。そういう人は、神様ではなく、自分自身の理性と感覚を信じて、考え続けるしかないので。それが、哲学です。

拙著『五感の哲学』は哲学と謳っていますが、感覚に関する議論を解説している哲学の専門書ではありません。神様だけに頼らない

で、自分の頭と身体で、世界で何が起きているのかを感じ取り、考えようとする方のための本です。

◇ 生きて遊ぶ

もはや将来に大きな希望を持たず、しかし絶望してわめくこともせず、淡淡とただ生きているだけの人々が、少なからず存在しています。私もその一員です。最低限の衣食が足りて雨露がしのげれば、もうしばらく現世にいてもいいかな、自ら死ぬほどのこともないし、と思つて生きている。もちろん人様に迷惑はかけたくないのですが、

面目に働いていますが、
私が死んでも別に誰も困らないし、むしろ死んだ方が世のためになる、という孤独者です。現代では、高齢者の多くが、そういう心境で毎日を過ご



◇ 惣じとはなく未知を求めて

五感を研ぎ澄ませて、悔いのない人生を生き切る力を得ようとすることが、本書のテーマですが、しかしそれは、ただ気持ちよく楽ちんで居たいということとは違います。楽な場所から出たくない、そこから動きたくないから、むしろ五感を鈍らせてしまう状態に陥

しています。「私は、もう、いつ死んでもいいと思つていますのよ」と、自己憐憫でも卑下でもなく、率直にそう言い続けて生きている日々が、現代では意外と長いのです。

その日々を、ただ五感を閉じて暮らしていくのでは、もつたいない。死に向かつて歩いているだけの隠れて暮らす者であつても、いやそそだからこそ、孤独に世界と対峙し、五感を開いて遊ぶ楽しみを享受できるのです。

本当の幸せのための五感の働くさせ方を究めることを目指す本書は、そういう高齢者にこそ楽しんでいただけるでしょう。

ることになつてしまふならば、それは、ぬるま湯に浸かつて出られなくなつてゐるにすぎないのです。

私はあちこちのカルチャーセンターで、や

さしい哲学を講じています。哲学の講義が終わると、受講した皆さんにはサッパリしたお顔で、きれいなお辞儀をして帰つていかれます。ある日ふと、その様子が温泉帰りのような風情に見えたとき、一般向けの哲学講座の位置づけが分かつたような気がしました。ここは「こころの温泉」なのだと。

本物の哲学者たちの思考には、凡人を寄せ付けない厳しさがあります。それは時には危険なほどで、地下深く煮えだきのマグマのようです。遠い時代の哲学者でも、彼らのテキストはマグマが噴出している活火山のように、現に今も私たちを激しく刺激します。

その煮えたぎるマグマは危険だけれど、そこから湧き出る湯を適温に冷ませば、効能ある温泉になります。恐るべき思想も、迂回させて地下水に熱を伝えて地表に導いてくれ

ば、ありがたい箴言となるのです。多くの一般向け哲学書は、そういう温泉のような役目を果たそうとしているのではないでしようか。

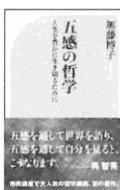
とはいへ実は、だれにでも入れるような低溫の温泉では気持ち良くなれないものです。カツと熱い秘湯こそ、ツボに効きます。凡百の生ぬるい入門書では得られない刺激を提供できるのは、閉鎖空間の教室で学ぶ哲学ならではの効能と心得で、私は日々哲学を講じているのです。学問研究として哲学を学ぶわけではないが、なんとなく哲学というものに心ひかれて、やさしい哲学講座に足を運ぶ方々は、痛いけれどもそれが気持ちよいくらいのマッサージを受けられます。

ぬるい湯ではつまらないと感じ始めているのならば、いやむしろそれこそが危険だと感じているのならば、まずは自分の五感に注意を向けてみてください。それだけで、いま浸かっている湯の温度は変わります。五感そのものの迷宮へと深く迷い込んで、あなただ

けに心地よい、熱い秘湯をみつけてみませんか。

加藤博子（かとう ひろこ）

1958年生まれ。新潟県出身。名古屋市在住。文学博士（名古屋大学）。専門はドイツ・ロマン派の思想。大学教員を経て、現在は幾つかの大学で非常勤講師として、美学、文学を教えている。また各地のカルチャーセンターで一般向けにやさしい哲学講座を開催し、特に高齢の方々に、さまざまなお話を言葉にする快感を伝えている。閉じられた空間で、くつろいで気持ちを解きほぐすことができ、「こころの温泉」として人気が高い。さらに最近は「知の訪問介護」と称して各家庭や御近所に出向き、文学や歴史、哲學などを講じて、日常を離れた会話の楽しさを提供している。本書は初の著作。



「あしながおじさん」にお礼を

エゼル福祉会 理事長
大川 美知子

払って下さる会費だけで運営されていました。だから、アイさんの寄付を私達は本当にありがとうございました。

「今月もアイさんからの寄付金が入つていいわ・・・・」と、銀行から帰つて来た職員が嬉しそうに報告し、その度に「凄いね！良かったア」と胸をなで下ろしたものです。

平成8年に始まつたアイさんからの匿名寄付は、平成9年の一年間が過ぎても終わることはありませんでした。それどころか平成

私達コンビニハウスが運営費に困ついていた平成8年の5月に匿名の振り込み寄付がありました。金額の横の名前の欄にはカタカナで「アイ」とありました。

多分、「愛を受け取つて下さい・・・」と言ふメッセージが込められて居たのだと思います。

当時のコンビニハウスには公的な補助金や支援費など一円も入つて来ない、ただ、利用会員となられた障害者の親御さんが毎月

えられないことに怒りと、深い悲しみがありました。

アイさんの寄付金が10万円に増えたことは関係者全員に伝えました。

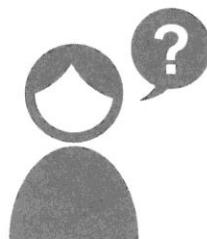
「アイさんは誰なの・・・・?」

「きっと、コンビニハウスの事情を知つている人だよ・・・」

「お礼が言いたい！」と、みんなの関心がアイさんに集まり、調べてみると「になりました。

振り込まれている銀行名と支店名がわかり、その周辺に住んでいてコンビニハウスの事情を知つてている人だ・・・と言つところまでは分かりましたが、それ以上を知ることは出来ませんでした。

会費の値上げに応じられない障害者は有料の福祉支援（コンビニハウスのレスパイトサービス）には応じることができず、次々に退会者が出でていたのです。厳しい現実が余りにも悲しく、住み慣れた地域で普通に暮らしたいと言う障害者のあたりまえの願いが叶

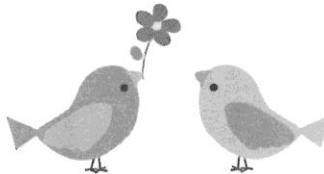


今年で
20年
に

コンビニハウスの活動が始まつてから今
年で20年になります。

仲間達からは助けを求める声が押し寄せる。
役所に事情を話に行つた帰
り道の気の重かったことと
言つたら……

大きな試練の中にあってもアイさんのような方々が手を差し延べて下さった幸せな時代でもあったと今は思っています。



月並みですが、お会いして一度お札を申し上
しゃるのでしようか。

月並みですが、お会いして一度お礼を申し上げたいと思います。

そして、いつ解散に追い込まれても不思議ではないコンビニハウス、綱渡りのような運営を強いていた20年前のコンビニハウスを何故助けたいと思われたのかお尋ねして

公的な支援制度の創設を願つても一向に聞かれてもらひえず、困つてゐる障害のある

思いを馳せる

「良いことをする時は右の手がしている」とを左の手に知られないようにそつとすると神様が喜ばれるのよ」と中学時代に担任してくれたシスターにいつも言わっていました。

遠い国で起きたことであつても我が身に引き寄せて考え方支援の行動に

介助が終わつた後、あの人あの後どうした
かなア・・・・と利用者さんの身に思いを馳
せる職員が居てくれることが大切。

思いを馳せる人では無くて、思いを馳せて貰う側になつて思うことは、アイさんのよう匿名寄付者にはなれないので、単なる寄付

「給食」

おひめごーる

W—I— パソコングループ

安永 麻里



先生は私のクラスの担任ではなかつたので、普段は一緒にお昼ご飯を食べることはありました。たまに合同で食べる機会があつた時には私も友達もみんな、うれしそうにしているように見えました。当時は私たちが十代で先生は二十代、年の差が十何歳しか変わらなかつたから、まるで兄弟みたいな関係で楽しく過ごせたのだと思います。

「バレンタイン」

中学3年生の2月、バレンタインの当日に女子生徒たちが、先生にチョコレートを一人ずつ渡していました。まるで、王子様を取り合いうような感じになっていました。私も順番を待つてI先生にチョコを渡しました。先生は嬉しそうに「ありがとう」と言つてくれました。私はチョコを渡していた他の女子達に「私の先生を取らないでね」と半分、冗談で言つたけど残りの半分は結構本気でそう思つていました。私は先生がチョコを必ず食べててくれるかな? ごちそうさまって私に言つてくれるかな? 他の人に私のチョコをあげたりしないかな? と色々と心配でした。

「修学旅行」

修学旅行の帰りの新幹線席が三人掛けだったので私と友達の間にニコニコしながらI先生が座りに来てくれました。新幹線の中で記念写真を撮りました。笑顔でとれました。私は嬉しくてつい声を出してしまいました。そして、どこかさまで、先生の足を蹴つとばしてしまいました。そしたら「俺の足を蹴るんじゃない。麻里の足は長いからひつこめとけ」と言われてしましました。帰りの新幹線は楽しいからか時間がすぎるのがとても早かったです。



たので、お母さん達も先生が気に入っているようでした。

「出会い」

I先生の第一印象は体が大きくて強そうでちょっと怖い感じがしました。けれど先生と話をしてみると外見とは裏腹に話を聞くのも上手で、ゆっくりと生徒たちと接し向きました。

「別れと再開」

今から数十年前、I先生は他の学校へと転勤をされました。そして現在は、私が通つていた名古屋養護学校に教頭先生としてもどつてきました。学校近くにある通所施設※「サンホープ名古屋」まで挨拶に来て

施設※「サンホープ名古屋」まで挨拶に来て

くれた時、一瞬ですが誰だか分かりませんでした。数十年前の先生とは姿が変わっていたからです。しばらくすると先生と話す機会があつたので、私は興奮を抑えられずにいました。話しかけると先生からの第一声は笑みを浮かべながら「麻里興奮するな」でした。その時、思わず笑ってしまい、姿は変わっても先生の性格は全く変わっていないなあと思いました。その日の夕方に友達へ「今週行きたい所があるから一緒に行かない?」と連絡をしました。その友達はI先生が担任だったため仲が良く、私なりにサプライズの意味を込めて内緒で会わすことを計画しました。

そして数日後一人そろつて学校まで会いに行きました。友達は先生に会うなりビックリして嬉しさのあまりキヤーキヤー声を出して言葉にならない状態でした。対照的に先生の第一声は「久しぶりだね」という感動の言葉ではなくて「初めまして」と白々しい感じでした。もちろん先生なりの冗談と分かつてはいましたが、誰に対しても同じように冗談を交えて接する先生は相変わらずだなあと思いました。

卒業をして何十年経っても、私たちのことを名前で呼び捨てにして子供扱いをするけれど、先生から名前で呼ばれても全然気になりません。むしろ昔と変わっていないなあと思つて少し安心します。私は先生のことをよ

く分かつているつもりです。相変わらずな言葉づかいも先生の一つの愛情表現なのだと思っています。でも、せっかく教頭先生になつたのだから、もう少し直してもいいのかな、とも思います。きっと先生は照れ隠しへ言っているから仕方がないのかもしれません。ちなみに「あなたは誰?」「初めまして」というお決まりの台詞はたまに会いに行くと今でも笑顔で言ってくれます。そこが先生の可愛いところで、そんなところも大好きです。

「最後に」

先生が真剣に私と向き合ってくれ、分かるまで一生懸命私に説明をしてくれたことや、悩んでいる時に相談に乗つてくれたことは今でも忘れません。私は先生のことを教師としても人としても尊敬をしていました。中学校3年の頃には、初めて異性として意識をしてしまつた人もあります。先生のことが好きだった時間は私にとって大切な宝物です。私は好きになつた相手には、告白をして自分が気持ちを伝えます。たとえ振られたとしても相手に気持ちを伝えないでお互いの気持ちを知ることが出来ないからです。そんな強気な私ですが、先生に告白することは出来ませんでした。先生からみたら私は男子生徒に

見えているみたいで、女子扱いをしてくれたことも無かつたし、そんな関係で告白をするのは、恥ずかしかったのだと思います。

最近では、障害があつても結婚している人たちは大勢います。私も障害が軽かつたら、恐らく専業主婦で子育てをしていたかもしません。私が通つている通所施設には障害者同士のご夫婦がいらっしゃいます。私もい

い人がいたら結婚したいな、と思う気持ちがあるので「いいな」と思つて見てします。お互いの生活はヘルパーにも支えられると言きました。もし私が結婚をする場合も多くの人の理解や支えが必要なのだと思ひます。夫婦が障害を持ついても、お互いが幸せなら私はそれで良いと思います。幸せな暮らしを夢見る乙女心をいつまでも忘れないで生きていきたいと思っています。



左：親友のSさん 右：安永麻里さん
中央：I先生

※私は2つの作業所に通っています。
その内の一つが「サンホープ名古屋」です。

《活動状況》

5月

- 8日 ヘルパー学習会
 14日 エゼル福祉会 監事会
 17日 自立支援連絡協議会施設部会
 (麻生・若林)
 名古屋生活支援事業所連絡会
 (大川・榎原)
 19日 第一回あいされん居宅部会
 (渥美・久野)
 21日 エゼル福祉会 理事会・評議員会
 24日 会報発送
 25日 きょうされん全国 総会 (久野)
 26日 W I L L 親の会
 31日 会報会議
 自立支援連絡協議会 全体会議
 (寺澤・麻生)



6月

- 2日-3日 名障連 新入職員研修 (水野)
 3日 社会福祉法人集団指導 (牧野)
 4日 町内会クリーンキャンペーン (榎原)
 5日 ヘルパー学習会
 愛知県相談支援専門員協会総会(寺澤)
 10日 名古屋生活支援事業所連絡会
 (大川・榎原)
 11日 全職員研修・N P O 総会
 13日 自立支援協議会居宅部会 (榎原)
 名古屋養護学校進路説明会 (麻生)
 16日 藤井克徳先生講演会
 “障害者権利条約にふさわしい施策の実現を”
 (麻生・有満・水野・世古・石原・伊藤)
 17日 あいされん相談支援交流会 (寺澤)
 21日 自立支援協議会施設部会 (麻生)
 23日 W I L L 親の会
 24日 O J T 研修 (藤本・世古)
 特別支援学校等卒業後対策連絡協議会
 (麻生)
 25日 ボラまっち (若林・有満)
 28日 自立支援協議会相談支援部会(寺澤)

購読料お振込への御礼

先号の会報購読料へのご協力に、早速たくさんの皆様からお振込を頂きました。

7月10日現在で93人の方から、振込金額合計479,000円のお振込みがありましたことをご報告します。

(※内訳 購読料93,000円(1口1000円)、その他は寄付金として386,000円)

2口以上を振り込んでくださった方が多くいらしたことにも深く感謝し、御礼申し上げます。これからも障害者福祉のみならず、様々な社会問題を提起し、多くの皆様にご購読いただけるよう、努力していく所存です。誠にありがとうございました。

事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料 1万円以上お振込みの方
 富永典子 堀部裕子 小山千ひろ
 中島温子 平田真人 岡本真理・美知子
 渡辺武司 矢崎正一 辻 正弘
 柴田祐子 松岡香代 野々山倉司
 株イーストフォレスト
 S・I アイ トクメイ
 (エゼル福祉会)
 増田 修

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

伊奈晶子 石原正寅 辻本道子 竹内恵子
 桑原諸彰 黒田隆広 高塚朱美 林 和子
 東原光江 寺西 剛 石原まち 酒井まみ子
 加藤志歩 鶩見澄世 曽我直子 赤坂美登里
 青木政治 田口陽介 梶原 亮 茂手木利典
 楠村ゆき 加藤礼菜 辻本有沙 小林ほのか
 加藤 結 土田京加 星野恭兵 寺田みどり
 三浦結梨恵 北島ゆり香

(WILL)

★ 物品寄付をいただいた方々

武部 文 梶田明宏
 須田たみ子 奥村 修

(コンビニハウス)

渡辺武司・棚瀬さおり
 東名メンテナンス
 滝 一廣
 (WILL)
 ウイル親の会・朝比奈幸生
 竹内まりや・中谷暢宏・木下楓奈子
 伊納尚男・塩澤しののか・丹羽恵子
 林和子・早川佳乃

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子
 高松陽子



第4回 WILL 夏祭り

日時: 8月19日(金)
開催時間 AM10:00~PM14:00 会場: エゼル福祉会 WILL

フース

- ・焼き立てお菓子
- ・焼き立てパン
- ・手作りジャム

ステージ

じゃがいも音楽隊
と
WILL音楽隊
・コラボコンサート

フース

・輪投げ・バザー
・かき氷・ジュース

ステージ

・仮装忍者隊
・じゃんけん大会
・朗読会

※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい
※商品は多数用意がございますが、売り切れの際はご了承下さい

銀行口座

三菱東京 UFJ 銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431
障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

コンビニハウス Tel (052) 502-7731
Fax (052) 505-6082
URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>
E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

コンビニの会
理事 宮川 優子

発行所: 東海身体障害者団体定期刊行物協会 名古屋市中区丸の内 3-6-43 みこころセンター4階